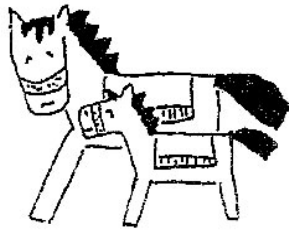


お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリと



令和5年 5月 No. 342

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松第二保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<https://oumanooyako.com>

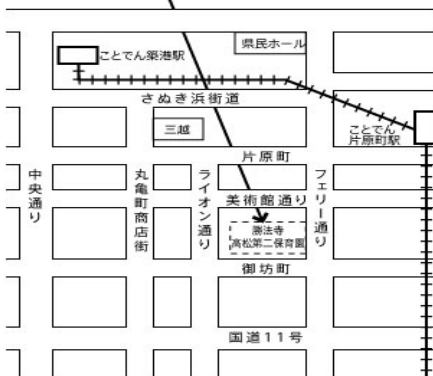


(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～			5月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
5月	9日 23日	火	体験保育 15:00～17:00	日差しもきつくなりましたが、外遊びのあと部屋でも運動遊びをしてみましょう。
5月	12日 26日	金	ヨガを楽しむ会 12日 14:30～16:00 26日 15:00～16:00	ヨガのお陰でコロナやインフルエンザにもかからず元気に過ごしています。飛び入りでもOKです。どうぞおいで下さい。
5月	18日	木	こうさぎおはなし会 15:00～16:00	子どもたちが楽しみにしているおはなしがいっぱいです。
5月	19日	金	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	三澤利香先生のご指導でフラワーアレンジメントをします。花ばさみと持ち帰り袋を持参して下さい。(無料。先着10名限定で締め切り5/12(金)まで。)
5月	20日	土	子育てに役立つ小物づくり 14:00～16:00	くらやみシアターでみんなびっくりです。暗い中に何が現れるのでしょうか？オリジナルのシアターを作ってみましょう。
5月	24日	水	自然の中の遊び体験 13:30～15:30	「花びらの万華鏡を作って遊ぼう」をテーマに命ある自然の神秘的な輝きを体験します。

<p>・火～土の9:00～18:00までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。(但し、月・日曜・祭日は休み)</p>	<p>育児相談(月～土) 9:00～18:00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活入園・見学についての相談もどうぞ。</p>
---	---

香川県高松市御坊町2-2  
地域子育て支援センター



金子みすゞ童謡全集②  
美しい町・下より

あまいつつじの  
蜜を吸う、  
私はいくろい  
蟻かしら。

あまいつつじの  
春のそら、青い  
私はいさな  
蟻かしら。

あまいつつじの  
赤い上についでに  
蜜を吸う。  
赤い上についでに



☆今月の内容 — ・絵本で人権思想の向上を— “不適切保育”を一掃するために—  
・不適切保育問題の余波

## 絵本で人権思想の向上を —“不適切保育”を一掃するために—

片岡 進

□すべての人に「尊敬・公平・反偏見」

2022年12月、静岡県の保育園、富山県の認定こども園を発火点に「不適切保育」という言葉が全国に広がり、計5人の保育士・教諭が逮捕または書類送検される事態となりました。結局、処分保留で解放されたとはいえ、逮捕拘留の事実、幼稚園・保育園関係者に衝撃を与え、保育界全体に深い傷跡を残したと言わざるを得ません。

不適切の中身を聞くと、危険を防ぐ咄嗟の行動だったり、逃げ回る子どもと格闘する場面だったりと思えるものです。しかし保育者からすれば自然に出た行為でも、保護者や第三者には“行き過ぎた行為”と映るかも知れません。「うちの園でも似たようなことがあるかも」とか「そこまでやらず、もう一歩手前で抑えられたら良かったのに」と思った園長さんも多いと思います。

2人の子ども、5人の孫を持つ私とて同じで、乳幼児期の彼らに対し、行き過ぎた行為・言動があったことは認めざるを得ません。「愛情ゆえに」の一言で帳消しできるものではないかも知れません。ところが彼らが小学生になると、意識したわけではありませんが、「この子ども自分と同じ一人の人間だ。頭ごなしにやってはいけない」という“人権思想”がプレーキをかけた気がします。逆に言えば、幼児期の子どもに対しては人権意識が足りなかった。つまり一人前の人間と見ていなかった、と反省しきりです。

ここに一冊の本があります。関西の保育者有志が集う「NPO法人ちゃいるどネット大阪」が企画編集した『人権保育のための絵本ガイド・パート2』です。不適切保育の報道が出てから、私はこの本を繰り返し読みました。そして保育者の方々には、もっと自分自身に読み聞かせるために、絵本の活動をしてほしいと思いました。

人権の定義は、「人間が、人間として当然に持っている権利」であり、いつでも、どこでも、同じように保障されるものとされています。

同書は、人権の基本要素を「尊敬」「公平」「反偏見」の三つの柱に分類し、そのいずれかに関する絵本を70冊選んでいます。ストーリーの紹介は簡単にして、実際に保育者がクラスで読み聞かせをした時の様子、子どもたちの反応や変化が詳しく記録されています。繰り返し読んであげ、あるいは劇あそびに発展していく中で、子どもたちが、それぞれに理解を深めていく過程も見えます。

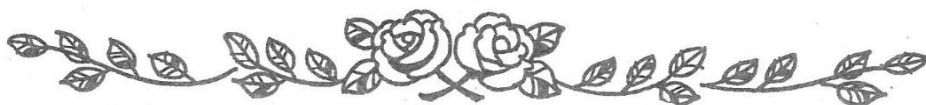
「子どもたちは絵本を通じて人権思想の芽を育てているんだ。日本に良質な絵本が

たくさんあって良かった」と思ったものです。

しかし同書の本物のネライは、そこではないのです。私立幼稚園の代表として副編集長を務めた矢木一美さんが「子どもたちの心に人権思想のタネをまくネライは、もちろんあります。でも人権意識が足りないと心配されるのは、大人つまり保育者の方なんです。だからこうした絵本を何度も読むことで、保育者自身の中にある人権思想をもっと大きく育ててほしい、それが本物のネライです。人権思想がしっかりできていれば、どんなに忙しくても、人手が足りなくても、園児に行き過ぎた行為をすることはありません。みんな同じ人格を持った一人の人間なんですから」と教えてくれました。まさに不適切保育をなくすための「絵本実践」であるわけです。

ただ私には、ひとつ気がかりな点があります。それは、昔に比べて、保育者がじっくりと絵本の読み聞かせをするシーンが減っていることです。お帰りの前、保育者が絵本を一冊読む光景は今も見かけます。しかし眼と耳は、時計を見たり、廊下の様子を気にしたりで、心ここにあらずのように見受けられます。それでは絵本の中身が園児に届かないだけでなく、自分にも届かないと思います。何をさておいても絵本を優先させる。そんな保育者であってほしいと願うばかりです。

(ようちえん情報センター代表 Web マガジン『月刊・私立幼稚園』主筆)



## 不適切保育問題の余波

普光院亜紀

### □保育者の不安・保護者との信頼関係

保育者には、相次ぐ報道のせいで、保護者から疑いの目を向けられるのではないかと、少し声を荒げただけで「不適切」と言われるのではないかとという不安を感じている方もいらっしゃるようです。このことについては、僭越ながら、私は「自信を持っていただきたい」と思っています。

今回報道されたような不適切保育や、私が相談を受けて「このまま放っておいてはいけない」と奮起するきっかけとなった不適切保育は、そんなに生やさしいものではありません。

仮に、保育者が思わず大きな声を出すような場面があったとしても、子どもが「人」として見えている保育者であれば行き過ぎないように自己統制できているはずです。

今回「不適切保育」と言われたケースは、そのレベルではなかったと思います。最初は小さな苛立ちから始まっているかもしれませんが、いつの間にか、保育者が

完全な強者となって、従わない弱者を有形無形の力で罰して(心身に苦痛を与えて)従わせることに無頓着になってしまっている、そういう状態です。大人に同じことをすれば、刑罰の対象になるような行為です。

保育者だって腹を立てることがあるのは当然です。それが、声や表情に出てしまうこともあると思います。大人同士にもあることです。でも、大人同士なら、感情のままに相手を支配することで問題を解決しようとはしないはず。子どもが「人」として見えているかどうかの違いです。本欄をお読みくださっている方々は、きっと「見えている」方たちだと信じています。

ただし、そのような違いは保護者からは見えにくいので、ていねいな対応が必要です。

このようなとき、日頃の信頼関係がモノを言います。保育者の保育観やこども観を伝えられていれば、保護者はまず保育者を信じようとするはず。保護者に不安が広がる心配がある場合は、むしろ保育の見える化(実際に見てもらっただけでなく、説明をつくすなど)を進めたほうがよいと思います。



## □負のスパイラルからの脱出

最も憂慮されるのは、このような不祥事が、保育者や保育者をめざしている人たちの意欲を削ぎ、保育士離れを起こさせてしまうことです。

多くの方が、保育士の処遇や仕事の負担の重さを訴え改善を求めてきましたが、それが保育という仕事のイメージダウンにつながっているという指摘があります。保育士不足を解消して、保育の質を上げるための発信が、よけいに保育士不足を招くという負のスパイラルを生んでいるのです。同様に、保育の質を上げるための「不適切保育」告発が、意欲的な人材の確保に悪影響を与えたとしたら、これもまた負のスパイラルです。負のスパイラルになってしまうのは、問題の抜本的解決を後回しにしてきたために、問題がさまざまな要素を孕んで深刻化しているためではないかと思われます。

保育の質を上げるためには、まず、保育者が生き生きと楽しく働けるようにすることが大切だと思います。保育士の配置を改善し、すべての保育者がていねいに子どもに向き合ったり保育の振り返りを行ったりできるようであってほしい。思い切った構造の改善を行い、一刻も早く正のスパイラルに切り変える必要があると思います。

(保育園を考える親の会 顧問)

